

れる。また本種の確認により，センターにおける哺乳類の確認種は7目13科25種となった（表1参照）。

引用文献

阿部永, 2020. 日本産哺乳類頭骨図説. 北海道大学図書刊行会. 279pp. 北海道.

飯島正広・土屋公幸, 2015. リス・ネズミハンドブック. 株式会社文一総合出版. 88pp. 東京

池本茂豊. 2021. 岡山県自然保護センターの哺乳類～岡山県自然保護センター 哺乳類リストの改訂～. 岡山県自然保護センター研究報告(28): 37-47. 岡山県自然保護センター.

岡山県（岡山県野生動植物調査検討会編）. 2023. 岡山県野生生物目録2019 ver. 1. 4. 1 哺乳類. 岡山県環境文化部自然環境課ホームページ. https://www.pref.okayama.jp/uploaded/life/722826_6560096_misc.pdf（2023年6月13日更新ファイル）.

岡山県自然保護センター 哺乳類目録
(追補種のみ)

ネズミ目 RODENTIA

ネズミ科 Muridae

ドブネズミ *Rattus norvegicus* (Berkenhout)

1, Jul. 9, 2023, 採取：池本 茂豊.



写真1. ドブネズミ発見状況
(2023年9月9日,撮影者:池本茂豊,場所:上池周辺).



写真2. ドブネズミ頭骨標本

表1. 岡山県自然保護センター確認哺乳類リスト
(2023年12月1日改訂, 追加された種は赤字で示した.)

目名	科名	和名
トガリネズミ形	トガリネズミ	ジネズミ
	モグラ	ヒミズ コウベモグラ
コウモリ	キクガシラコウモリ	キクガシラコウモリ
	ヒナコウモリ	モモジロコウモリ
		アブラコウモリ
		ユビナガコウモリ
		コテングコウモリ
サル	オナガザル	ニホンザル
ウサギ	ウサギ	ノウサギ
ネズミ	リス	ニホンリス
	ネズミ	カヤネズミ
		アカネズミ
		ヒメネズミ
		ドブネズミ
		ハツカネズミ
ネコ	ヌートリア	ヌートリア
	イヌ	タヌキ
		ホンドキツネ
	イタチ	テン
		ニホンイタチ
		シベリアイタチ
鯨偶蹄	イノシシ	ニホンイノシシ
	シカ	ニホンジカ

記 録

岡山県におけるヒナノシャクジョウとホンゴウソウの新産地

岡山県自然保護センター 柿 真理
岡山市 難波 靖司

New locality of *Burmannia championii* Thwaites and *Sciaphila nana* Blume in Okayama Prefecture, Japan

Makoto Kaki, *Okayama Prefectural Nature Conservation Center*
Yasushi Namba, *Okayama City*

Abstract

A new locality of *Burmannia championii* Thwaites and *Sciaphila nana* Blume were discovered in Okayama City, Okayama Prefecture, Japan. This is the third record of *B. championii* and the fifth record of *S. nana* in Okayama Prefecture.

キーワード: ヒナノシャクジョウ, ホンゴウソウ, 新産地, 岡山県, 岡山市, 菌従属栄養植物

はじめに

筆者らは2022年, 2023年に, 岡山市内において, ヒナノシャクジョウ *Burmannia championii* Thwaites, ホンゴウソウ *Sciaphila nana* Blumeの2種を同所で確認したので報告する. ヒナノシャクジョウはヒナノシャクジョウ科ヒナノシャクジョウ属の多年草, ホンゴウソウはホンゴウソウ科ホンゴウソウ属の多年草であり, 両種とも生きるために必要な栄養を光合成に代わって共生する菌に依存する菌従属栄養植物である(大橋ほか編, 2015). 両種は岡山県においては極めて希少な種で, 岡山県版レッドデータブック2020(岡山県, 2020)で, とともに絶滅危惧Ⅰ類に選定されている. また, 国内のレッドデータをまとめたウェブサイト「日本のレッドデータ検索システム」(NPO法人野生動物調査協会・NPO法人Envision環境保全事務所, 2007-)によると, 西日本を中心として30を超える都府県で両種が選定されているほか, 環境省の公表しているレッドリスト2020(環境省, 2020)において, ホンゴウソウが絶滅危惧Ⅱ類に選定されるなど, 両種とも全国的にも希少な種である.

両種の岡山県内での既往記録として, ヒナノシャクジョウは総社市(岡本, 2019), 備前市(片岡, 2022)の2例があり, ホンゴウソウは岡山市1例目(狩山, 2000), 高梁市(小橋, 2005), 岡山市2例目(山尾・波田, 2008), 総社市(岡本, 2013)の4例がある. 本報告により, ヒナノシャクジョウは3例目, ホンゴウソウは5例目の自生地確認となる. なお, 生育地保全の観点から詳細な位置情報は非公開とする.

植物の同定は「改訂新版 日本の野生植物」(大橋ほか編; 2015, 2016a, 2016b, 2017a, 2017b)に準拠し, 学名は「BG Plants 和名-学名インデックス」(米倉・梶田; 2003-)に従った.

観察結果

1. 両種の生育を発見した環境

今回, 両種を発見した地点は, 岡山市内の山林で, 表層地質は細粒花崗岩類からなる谷である

(光野・西部技術コンサルタント株式会社, 2020)．距離として約200 mの区間、標高は約320 mであった．同区間の谷底には幅1 m内外、水深20 cm以浅の小さな沢が流れており、水際から一段上がった平地までの斜面にはコケ植物のオオミズゴケが点在して生育していた(写真1)．林分としては、高木層をコナラやリョウブなどの落葉広葉樹が優占した二次林であり、谷斜面から伸びた高木の枝葉が閉鎖した林冠を形成し、斜面下部や谷底の低木層にはアラカシ、ヒサカキ、タムシバ、ナツツバキ、サカキ、イヌツゲ、コガクウツギ、アセビ、タンナサワフタギ、ウリカエデ、ミヤマウグイスカグラ、シロバナウンゼンツツジ、コアジサイ、エゴノキ、ウメモドキ、コバノミツバツツジなどがやや密に生育していた．そのため林床は暗く、草本層にはシシガシラ、コチヂミザサ、ハシゴシダ、ショウジョウバカマ、ハイチゴザサなどがまばらに生えている程度であった．



写真1. 沢沿いの水際に生育していたオオミズゴケ。

2. 2022年の生育状況

筆者らは、2022年8月23日に現地を訪れた際に、沢の流れに近い斜面下部および岸の湿った落葉層の隙間から白色で頭状の花序が1-2 cmほど飛び出した大きさ数cmの植物を確認し、その特徴からヒナノシャクジョウと同定した(写真2)．その後、沢沿いを歩きながら個体数を計数したところ、約200 mの区間中にヒナノシャクジョウ74個体を確認した．また、そのうちの1個体を採集して標本作製し、倉敷市立自然史博物館に寄贈し

た(標本番号: KURA-252281)．採集したヒナノシャクジョウは、落葉の隙間から2 cmほど花をのぞかせており、全体の長さ約7 cmで、花は長さ約7 mmで10花ほどつき、全て花期が終わり若い果実となっていた．他方で、同日に同地点で撮影した写真のうちの1枚に、ホンゴウソウ属とみられる種の存在を確認した(写真3)．



写真2. 花期が終わり若い果実をつけたヒナノシャクジョウ。いずれも湿った落葉層の隙間から花をのぞかせていた。



写真3. 同所的に生育していたヒナノシャクジョウ(右)とホンゴウソウ属(左)。

3. 2023年の生育状況

先述の2022年に確認したホンゴウソウ属とみられる種の生育状況を精査するため、筆者らは、2023年8月10日に再度同地点を訪れた．その結果、花柱に毛がなく花序が分枝しないホンゴウソウ属の生育を確認し、その特徴からホンゴウソウと同定した(写真4)．ホンゴウソウは、前年にヒナ

ノシャクジョウが生育していた約200 mの区間のうち上流部の約30 mの区間のみ生育しており、確認できた数は10個体にとどまった．このうち雄花と雌花をつけたホンゴウソウを1個体採集し、標本作製した後、倉敷市立自然史博物館に寄贈した(標本番号: KURA-254258)．採集した個体は、落葉の隙間の地上部から2 cmほど花茎を立ち上げ、大きさ約1 mmの花を20花ほどつけていた(写真4)．また、ヒナノシャクジョウは、前年と同様の区間で約100個体生育しており、開花個体も確認できた(写真5)．ホンゴウソウの確認数は10個体と少なかったものの、ヒナノシャクジョウと同所的、または狭い範囲にヒナノシャクジョウとともに生育している個体が見られた(写真6, 写真7)



写真4. 採集したホンゴウソウ。花茎の高さは約2 cm。

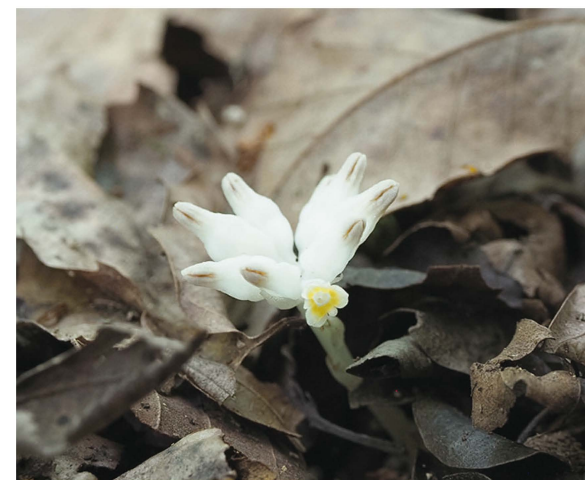


写真5. 開花したヒナノシャクジョウ。

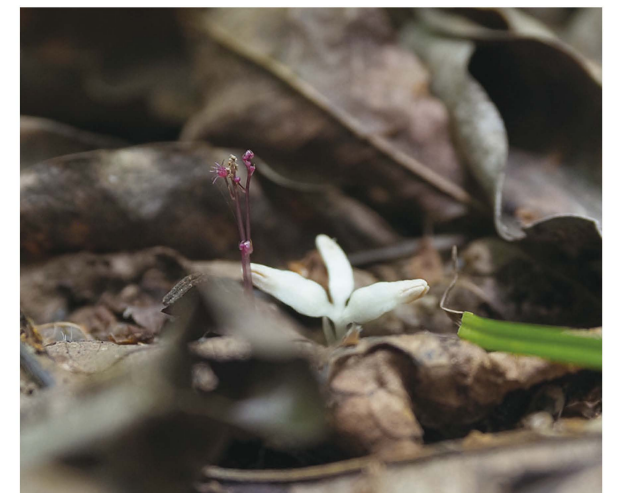


写真6. 同所的に生育していたヒナノシャクジョウ(右)とホンゴウソウ(左)。



写真7. 隣接して生育していたヒナノシャクジョウ(左・右)とホンゴウソウ(中央)。

考 察

今回、落葉が多く草本層の植生がまばらな環境にほぼ同所的にヒナノシャクジョウとホンゴウソウの両種を確認したが、愛知県の長谷川ほか(2019)の報告では、地表面における落葉の被覆割合が70%程度、草本層の被度が30%以下で、林床の植物の多様性が乏しい場所において両種の同所的な生育が確認されており、本報告で確認された自生環境に近いと考えられる。

本報告におけるヒナノシャクジョウの記録は、岡山県内における同種の記録としては、岡本(2019)によって2009年に総社市で記録された10個体程度をゆうに超える岡山県内最大の産地であ

る。しかし、ヒナノシヤクジョウやホンゴウソウのような菌従属栄養植物は、一般に開花期と結実期が短く、それ以外の期間は地上に姿を見せない。このことから、人目につきにくいことにより既に調査が行われている土地でも見逃されている可能性があるほか、知らず知らずのうちに消失している可能性もある。近年、ラン科の菌従属栄養植物であるタシロランが岡山県で初記録された例（難波，2023）では、自然遷移の進行と里山の衰退がタシロランを含む森林の下層植物の増加に影響を与えている可能性が示唆されている。

今後の地域植物相の解明や希少な菌従属栄養植物の保全に向けて、引き続き記録と知見の蓄積が期待される。

謝 辞

本報告の執筆にあたり、倉敷市立自然史博物館の鐵慎太郎氏には標本資料の確認へ協力していただき、狩山俊悟氏には岡山県内における両種の分布情報と有益な助言を頂いた。この場を借りて感謝申し上げる。

引用文献

特定非営利活動法人野生動物調査協会・特定非営利活動法人Envision環境保全事務所, 2007-. 日本のレッドデータ検索システム. <http://jpnrdb.com/>, 2023年11月13日閲覧.

長谷川泰洋・吉野奈津子・杉山晃, 2019. 菌従属栄養植物ホンゴウソウ、ヒナノシヤクジョウの生育環境特性. 環境経営研究所年報(18): 36-43. 名古屋産業大学・名古屋経営短期大学環境経営研究所.

狩山俊悟, 2000. 岡山県初記録のホンゴウソウ. しぜんくらしき(32): 24. 倉敷市立自然史博物館友の会.

片岡尚也, 2022. 絶滅危惧Ⅰ類の多年草 ヒナノシヤクジョウ自生. 山陽新聞東備版2022年（令和4年）8月9日, 26. 山陽新聞社.

小橋理絵子, 2005. 岡山県2カ所目のホンゴウソウ偶然発見記. しぜんくらしき(52): 2. 倉敷市立自然史博物館友の会.

環境省, 2020. 環境省レッドリスト2020.

<https://www.env.go.jp/content/900515981.pdf>, 2020年3月27日発表(環境省報道発表資料); 2023年11月13日閲覧(環境省ホームページ).

光野・西部技術コンサルタント株式会社, 2020. 改訂版 岡山県表層地質図.

難波靖司, 2023. 岡山県におけるタシロラン（ラン科）の初確認記録. 岡山県自然保護センター研究報告(30): 74-77. 岡山県自然保護センター.

大橋広好・門田裕一・邑田仁・米倉浩司・木原浩(編), 2015. 改定新版 日本の野生植物 1. 666pp. 平凡社.

大橋広好・門田裕一・邑田仁・米倉浩司・木原浩(編), 2016a. 改定新版 日本の野生植物 2. 640pp. 平凡社.

大橋広好・門田裕一・邑田仁・米倉浩司・木原浩(編), 2016b. 改定新版 日本の野生植物 3. 604pp. 平凡社.

大橋広好・門田裕一・邑田仁・米倉浩司・木原浩(編), 2017a. 改定新版 日本の野生植物 4. 608pp. 平凡社.

大橋広好・門田裕一・邑田仁・米倉浩司・木原浩(編), 2017b. 改定新版 日本の野生植物 5. 760pp. 平凡社.

岡本泰典・岡本東美・狩山俊悟, 2019. 岡山県初記録のヒナノシヤクジョウ.しぜんくらしき(108): 11-12. 倉敷市立自然史博物館友の会.

岡本泰典, 2013. 総社市内でホンゴウソウを発見. しぜんくらしき(87): 5. 倉敷市立自然史博物館友の会.

岡山県(岡山県野生動植物調査検討会(編)), 2020. 岡山県版レッドデータブック 2020 植物編 1 維管束植物.29-326. https://www.pref.okayama.jp/uploaded/life/656841_5702311_misc.pdf, 2023年6月13日更新; 2023年11月13日閲覧(岡山県環境文化部自然環境課ホームページ).

山尾僚・波田善夫, 2008. 岡山県岡山市で発見されたホンゴウソウ（ホンゴウソウ科）. Naturalistae(12): 41-44. 岡山理科大学.

米倉浩司・梶田忠, 2003-. 「BG Plants 和名－学名インデックス」（YList）. <http://ylist.info>, 2023年11月13日閲覧.

岡山県自然保護センター研究報告 Bull. Okayama Pref. Nature Conservation Center(31): 23-26, 2024.

短 報

倉敷市で記録されたヒナコウモリの繁殖地

矢掛町 江木 寿男
岡山市 山田 勝

Notes on breeding colonies of *Vespertilio sinensis* (Peters, 1880) recorded from Kurashiki City

Hisao Egi, *Yakage-town*
Masaru Yamada, *Okayama-city*

キーワード: ヒナコウモリ, 記録, 岡山, 繁殖

はじめに

ヒナコウモリ *Vespertilio sinensis* (Peters, 1880)は、日本と中国東部、シベリア東部、朝鮮半島に生息するヒナコウモリ科のコウモリである（岡山県野生動植物調査検討会編，2020）。岡山県内では岡山市中区雄町の鉄道架橋で山田（2008）により繁殖地が報告され、本種が岡山県内で繁殖していることが確認された。今回、これとは別場所の倉敷市内において本種の繁殖地が確認されたのでここに報告することとした。

確認の経緯

2023年7月10日の午前7時30分頃、筆者の一人である江木が倉敷市真備町川辺の鉄道高架横の道路を自動車にて通過中にコウモリ類のものと思われる鳴き声と地上に大量の糞があることを確認した（写真1；写真2）。用事を済ませた夕方17時ごろに双眼鏡で確認したところ鉄道高架天井の東西2か所の隙間に多数のコウモリ類がひしめいているのを確認した。当地の約2-5 km西方では越山他（2016）、越山他（2018）によりアブラコウモリ *Pipistrellus abramus* (Temminck, 1840)とヤマコウモリ *Nyctalus aviator* Thomas, 1911の生息が報告されているが、上記2種ではない可能性を感じたため、2023年7月20日に直出し調査することと

した。

2023年7月20日の18時ごろに江木と山田の2名で現地を訪れたところ、コウモリ類は鉄道高架天井の東西2か所の隙間に視認できる範囲だけで東の隙間140頭、西の隙間164頭、合計304頭が確認された（写真3）。ただ、この時点では隙間の奥の個体は視認が難しく、実際より過小な頭数しか確認できなかった。

種の識別結果

観察時に1頭が西の隙間から脱落してきた（写真4；写真5；写真6；写真7；写真8）。しばらく地上を匍匐していたが、力尽きて動かなくなり死亡した。この個体は背と腹が擦れて毛が脱落していた。その個体を計測したところ、前腕長（左）49.3 mm，前腕長（右）49.7 mm，頭胴長62.2 mm，尾長34.8 mm，体重20.3 gであった。他に顔は幅広で黒く鼻端は平坦なこと、耳介は幅広く先端は丸いこと、耳珠は幅が広く前縁の高さと同程度、乳頭は1対などの特徴が認められた。以上の外部形態的特徴からコウモリの会編（2011）の検索表に従い同定したところ、ヒナコウモリと同定された。念のため、さぬき市在住の川口敏氏に同定を依頼したところ、頭骨の形態からやはりヒナコウモリと同定されたとのことであった。また、陰茎が認められず乳頭周辺が肥